

軍事機密

古北口附近
日ソ蒙軍

紛争ニ關スル報告

昭和廿年 八月卅日

獨立混成第八旅團司令部

1713

一 事件開始前ニ於ケル狀況

ハ 旅團ノ任務

ハ 兵團ハ瀧師團作命ニ基キ古北口附近ヲ確保シ、ソノ蒙軍ノ南進ヲ阻止シ、爾後軍挺身游撃ヲ據點トシテ敵戦力ヲ破碎スルニ任務ヲ有シ、工事ヲ實施中ナリ

ハ 八月十七日兵團ハ方面軍直轄トナリ依然主力ヲ以テ古北口附近ニ位置シ、ソノ蒙軍ノ侵入ヲ阻止スルニ任務ヲ有シ、アリ

ハ 又部署各部隊態勢ノ概要

ハ 各部隊ハ十七日夕迄ニ夫々古北口ニ集結完了前項ハノ任務ニ基キ工事ニ着手セリ

ハ 當時越智參謀ハ(十五日)各部隊配備ノ爲古北口ニ先進陣地偵察ニ任シ、アリタリ

ハ 兵團長ハ十七日古北口ニ前進セリ

ハ 各部隊部署及態勢別紙要圖ノ如シ

3. 大詔奉戴及停戰命令ノ受領ニ基キ旅團指示セル事項
ハ當時古北口ニ於テハ越智參謀以下停戰ノ事實ニ關シ半信
半疑ニシテ十七日兵團長到着ト共ニ初メテ之ヲ確認セル狀況ナリ
④ 旅團ハ右ニ基キ左記ニ關シ指示ス

一、大詔内容

ニ停戰ニ關スル陸海軍人ニ賜リタル勅語

三、方面軍司令官訓示ノ要旨

右ニ基キ旅團ノ方針

ノ事苟クモ聖慮ニ出ス輕與手ヲ戒メ隱忍ニ隱忍ヲ重ネ忍フヘカラ
サルヲ忍フヘシ

2. 自衛ノ爲ニ断乎武カラ行使スルコトアルモ極力戰鬥ヲ戒メ努メ
テ交渉ニ依リ解決ス

依テ上官ノ命ナキ限り射撃ヲ禁ス

3. 其ノ他軍紀風紀ノ嚴肅對民衆軍紀ノ確立團結士氣白印

(抄録版・真意)

揚三關之從前ト渡リナク且取後迄皇軍ノ眞價ヲ發揮スヘキコト
々事件前知得セルソノ蒙軍ノ狀況

一、八月十九日正午

承德第八一部隊中村中尉ヨリ戰車四ヲ伴フ少數ソノ蒙軍
騎兵八十九日正午頃滦平ニ進出双頭山ニ約二〇〇〇侵入ニア
ルモノ、如之ト電話連絡アリ

二十九日二十時頃承德八八一部隊堀井少尉ヨリ〇〇少將ノ指揮
スルソノ蒙軍承德ニ進出接渉ノ結果承德驛ヲ讓渡シ守
備隊ハ武裝解除ヲシ旧八八一部隊司令部内ニ居留民
八旧八八一部隊内ニ抑留之カ保護ハソノ蒙軍之カ担任ヲ約
セリトノ電話連絡アリ

二、事件經過ノ概要

ハソノ蒙軍ノ進出狀況

八月二十日〇九五〇頃中第一線タル獨歩第三大隊前面百旗

ヲ揚ケタルソノ蒙軍騎兵部隊約一中隊現出我方ニ對シ會
見ヲ要求シ來ル

2. 軍使到着時ニ於ケル處置

ヨ旅團ハ豫メ進下備セルトコロニ其キ高級參謀越智中佐ヲ
シテ古北口旧關東軍兵營ニ於テ交渉ヲ行ハシムヘク獨歩三
十一大隊長宮田大尉ヲシテ軍使ヲ誘導セシム

(四) 宮田大尉ハ自ら第一線ニ進出十時ソ聯將校「カシヤ」大尉ヲ
長トセル軍使數名ヲ誘導シ來リ越智中佐トノ間ニ第
一回交渉ヲ開始ス

3. 兩軍使會見中ニ於ケルソノ蒙軍ノ不法侵入ノ狀況

彼我兩軍使交渉中我第一線部隊前面ニアリタル軍使警言
護部隊タル一部ノソノ蒙軍ハ自動短銃等ヲ以テ威嚇的發砲
ヲ行義、絶對射撃等セサルニ乘シ逐次第線部隊ノ間隙ヨ
リ進入古北口部落内各所ニ於テ發砲攪亂シツ更ニ不法

(5) 陸軍部 26. 8. 22

1717

ニモ我兵器ノ奪取掠奪ヲ行フニエトリ
又越智中佐ノ交渉狀況

第一次

ハ越智中佐ハ土時日關東軍兵營ニ於テソノ蒙軍軍使ト
會見彼ノ古北口占領並武裝解除ノ要求ニ對シ應セサル旨ヲ
回答シ交渉中部落内各所ニ於テ銃聲起リ一部ノ敵ハ既
ニ我カ側方及後方ニ侵入シアルヲ知ル

ハ依テ事態ノ收拾ヲ爲シムコト得ス一部第線部隊ノ武裝解除
ヲ容認スルト共ニ我方ヨリソノ蒙軍ノ古北口以南へ侵攻セラルト
及一部兵器讓渡後ノ兵員ノ速カナル返還ヲ要求シ彼ハ應
之ヲ受諾第一次交渉ヲ終了ス

第二次

然ルニソノ蒙軍ハ在古北口全部隊武裝解除ヲ要求シ來
リタルモノ如キモ其ノ後ノ狀況詳カナラス

5. 旅團長ノ狀況判断並決心處置

ゆソ蒙軍現出前ニ於テハ晝裏ニ大詔喚發アリ引續キ方面
軍司令官ノ訓示等ニ鑑ミ若シソ蒙軍來ルトキハ努メテ
交渉ニ依リ解決ニ隱忍ニ隱忍ヲ重ネ極力戰鬥惹起ヲ戒
ムルヲ最善ノ策ヲラムト思料シ此旨兵ニ至ル迄徹底シアリ
但シ自衛ノ爲萬止ムヲ得サルトキハ斷乎武カ行使スルコトモ
考ヘアリ

四ソ蒙軍現出ノ第一回交渉間ノ狀況(交渉即戰鬥ノ不法
行爲)ニ鑑ミ速カニ非常事態ヲ收拾スルタメ古北口占領並
ニ部武裝解除ヲ容認シ其ノ他ノ主力ヲ速カニ石匣鎮
ニ集結シソ蒙軍ノ南下ヲ阻止スルニ決ス

以テ前項決心ニ基キ中第線タル獨歩三十一大隊ヲシテ旧關東軍
兵營ニ集結ヲ命シ爾餘ノ諸隊ハ逐次石匣鎮ニ集結ヲ
命スルト共ニ我智參謀ヲシテ更ニ交渉ヲ繼續セシム

(治安部・五頁)

1719

6. 被武装解除部隊武装解除状況

(1) 武装解除部隊ハ整々田端ニ實施セラレタルモノク然ルニ
 彼ハ其後之ヲ抑留之再三交渉ヲ爲スモ之ヲ返還セス

尚ホ被武装解除者ハ凡テ田關東軍兵營ニ抑留セラレ
 給養ハ凡テ自隊ノモノニ於テ實施スリ (約二週間合リ)

(2) 獨歩三五大隊ノ一部及旅團砲兵隊ハ前記交渉間驛ニ

ソ蒙軍ノ不法侵入スルトコロトナリ後退困難ナル状況ニアリ
 止ムヲ得スソ蒙軍ノ要求ヲ受諾スルニ至レルモノト判断セラル

ク旅團主力ノ石匣へ轉進状況

(3) 第一次交渉ノ不法状況ニ鑑ミ主力ハ速カニ石匣鎮ニ向ヒ轉進
 之旅團長ハ豫備隊(工兵隊)ト共ニ他(獨歩三三)旅團工

兵隊(八十二)日頃時以降同日拂曉迄ニ夫々石匣鎮ニ轉進
 ヲ了セリ

(4) 獨歩三五大隊ノ一部及旅團砲兵隊ハ前述如キ状況ニ在リ

遂ニ之ヲ掌握シ得ズ

8. 石匣到着時ニ於ケル旅團^長決心處置

旅團長ハ方軍作命申方第三五三號ヲ于日二十四時三十分頃古北口ヨリ石匣鎮ニ向ヒ前進中ニ受領ス右命令ニ基キ旅團ハ石匣鎮附近ニ於テ極力交渉ニ依リ敵ノ南下ヲ阻止シ要スレバ断乎武カヲ行使スルニ決ス

處置

當初主力ヲ以テ石匣鎮城内ニ集結シ部有力ナル部隊(獨歩三十二大隊)ヲ陳各庄ニ位置セシムルト共ニ當時密雲ニ在リシ獨歩三十五大隊主力ヲ陳各庄附近ニ急進セシメ攻勢防禦ノ態勢ヲ整ヘリ

石匣鎮前面向テ於ケル敵軍使トノ交渉

(1) 二十二日十時頃ソ蒙軍騎馬軍使約五六十騎現出シ旅團ハ代表軍使ヲ以テ交渉セシム

(2) 旅團長 藤田

敵側要求

イ 武装解除

ロ 密雲迄南下

右要求ヲ拒否シツ、二十五日迄數回交渉ヲ續行セリ

ハ 二十六日ノ交渉ニ於テ我方永山參謀持參ノ通告文ヲ提示セ

ルニ彼ハ明ニ七日圓答スト申出テ再會ヲ約ス

ニ 彼ハ今日十七時頃ヨリ兵力ヲ撤シ約セル圓答ヲ行フコトナク翌二十

七日迄ニ古北口附近ニ後退セリ

三 現況將來ニ關スル判断

イ 旅團ハ八月二十四日ニ十四時方面軍指揮下ヲ脱シ戰車第三師團

ノ指揮下ニ入ルト共ニ緒方支隊ヲ指揮下ニ入ラシメラル

旅團ハ主力ヲ石匣鎮及周邊部落ニ集結シ部兵力ヲ密雲縣

城周辺ニ集結セシメ專ラ軍使ノ交渉ニ依リソ蒙軍ノ後退ニ努

カニツアリ

將來ニ對スル判断

四敵ハ右軍鎮附近ノ兵力ヲ後退セルモ依然古北口ヲ確保スルナラニ
我軍右軍ヲ確保スル限リ再度長城線以南ニ侵攻スルコトナカル
ヘシ

ハ) 旅團ノ止圖

旅團ハ依然現態勢ヲ以テ古北口附近ニ於ケルソ蒙軍ノ動勢ヲ
靜視シ其ノ侵攻止圖ヲ破摧ス

所見

ハ) 方面軍司令官ノ訓示ニ示サレアル如ク事苟モ堅断ニ出テタル皇
國百年ノ大計ニ屬ス謹ニテ之ヲ受久シ之壁言ハ純真ナル武士道精
神ニ發スル行爲ト雖モ大詔ノ御精神及此レニ基ク諸命令ニ
背反モシラハ抵觸スルモノハ断ニテ之ヲ許サズ云々ノ右訓示ハ兵ニ至
ル迄徹底シ第線ニ布陣セルモノハ忍ビ難キヲ忍ビ人余リニモ隱忍シ
消極的ニテリ居リタル結果ト中小隊長級ニ於ケル自衛戰鬥ノ判

(註) 宣統二年

断ニ誤リヲ生シ敵ノ不法侵入ヲ黙過セシムルニ至リ

(2) 敵側軍使トノ接渉ニ方リ彼我配備ノ中間ニ於テ接渉セス我第一

線後方ニ在リタル旧關東軍兵營内ニ於テ安貞施セルハソ蒙軍

ノ侵入ヲ容易ナラシメタル一因ナリ

(3) 敵ハ軍使ト共ニ苦干ノ兵力ヲ以テ武力ヲ行使シ侵入セルモ我ハ前記

訓示等ヲ體シ忍ヒ難キヲ忍ヒタルト共ニ敵側モ又我ト同様ノ戰場

ニ於ケル道義心アルモノト判断シアリタルハ大ナル誤リナリキ

在古北口人員馬匹兵器一覽表

陸軍部

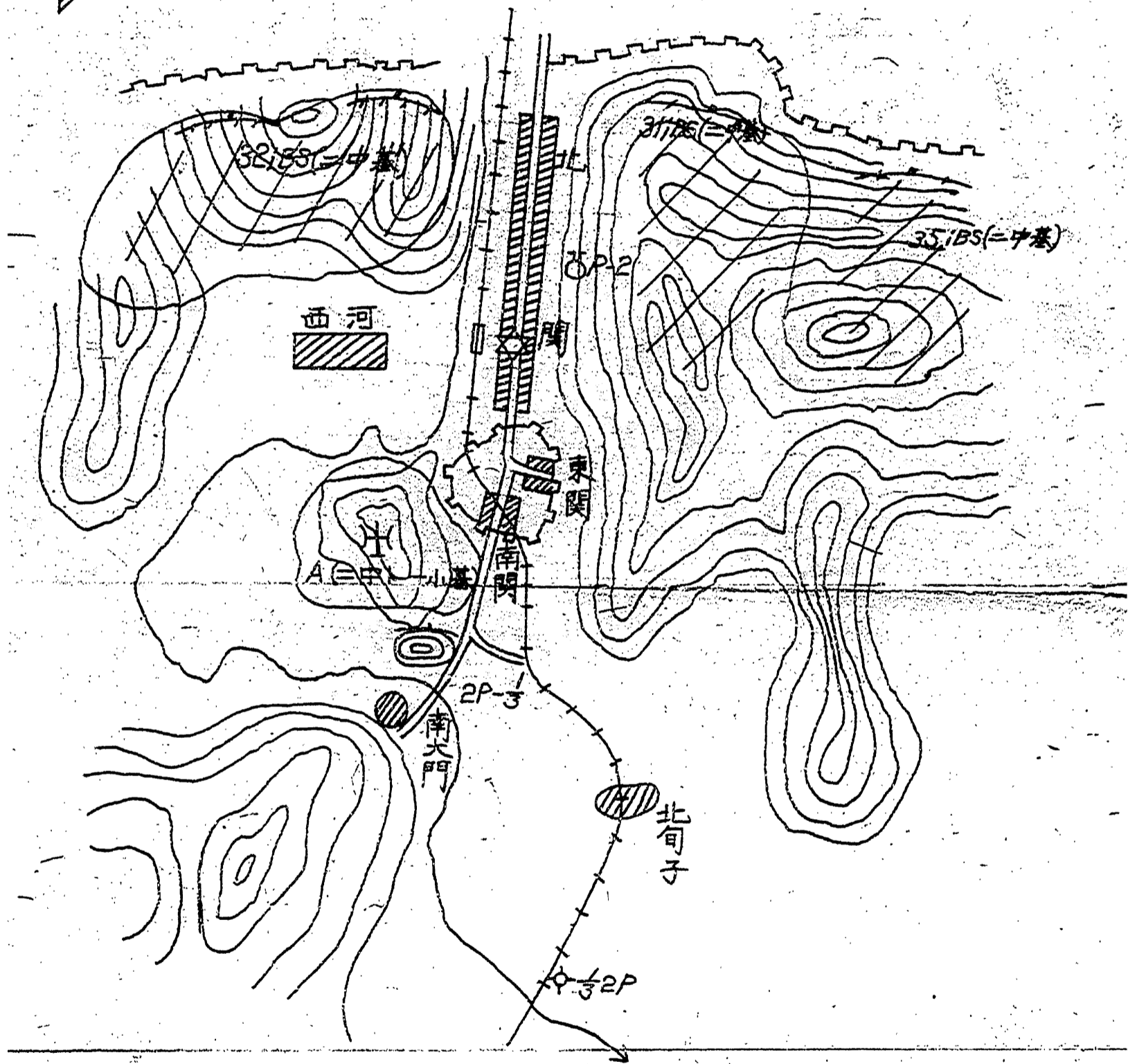
人員	馬匹	兵器	部隊名		獨混	司令	獨混	獨混	獨混	總計	摘要	
			八	部	八	三	三	八				
人			將	校	4		27	10	14	55		
			准	士官					4		4	
			下	士官	3		65		24	52	144	
員			兵		7		385	265	211	868		
			合	計	14		477	303	277	1071		
馬	匹		日	本馬			24		195	219		
			大	陸馬			70		199	169		
			合	計			94		394	488		
兵			三	八式野砲					4	4		
			九	四式山砲					2	2		
			四	一式山砲			1		1		2	
			三	一式山砲			1		1		2	
			九	二式山砲			1				1	
			八	二耗迫真砲			4			4	8	
			三	式三七耗砲			2				2	
			重	機關銃			5		5		10	
			輕	機關銃			13		12		25	
			智	式輕機關銃						3	3	
			擲	彈筒			11		7		18	
			三	八式步兵銃	8		228			127	363	
			拳	銃	3		67			37	107	
			五	號無線機			3		3		6	
			小	型無線機			2				2	
銃	劍					440		440				
將	校乘馬具					18		18				
眼	鏡					25		25				
合	計											

1727

圖要勢態團旅八第成混立獨

於=口北古時九日一十二月八年十二和昭

1728



第一ソ聯軍ノ動向

一 服裝態度軍紀風紀

滿洲苦力中最低ノモノ以下ノ汚キ見苦シキ窮民々々ノ服裝ニシテ正規ノソ聯軍トハ思ハレス且野蠻未開ノ土人ノ争鬪ニ似テ掠奪暴行勝手タルヘシトスル如キ態度ニシテ外交折衝等ニテ之ヲ防止スル等ハ不可能ナル無頼徒ノ集團ナリ

二 在滿工場施設一切ノ搬出狀況

在滿重工業施設ハ一切之ヲ東部シベリヤ、ウラル山脈以東地區ニ移符シ以テハバロツス、浦塩ヲ根據トシテ滿洲ニ掘ルル腕ミヲ利カ

セ對滿鐵鐵ヲ完備化セントシツツアルモノノ如シ

種天市内外ノ各種工場ノ工作機械、電氣器一々一類ハ悉ク取外シ大小一物ヲモ悉クサス南滿鐵道ヲ以テハルビシニハルビシヨリソ聯貨車

ニ積換ヘ来タラニシナヤヲ通過シ哈府、滿鐵方面ニトシキ輸出中ナリ目下客貨車ハ悉ク旅客發送ハ許可セズソ聯管理下ニ在リテ機械類

以外高價ナル家具類ニ至ル迄掠奪品ヲ發送シツツアリ

松花江、豐滿等處獨逸製ノ大發電機被ハ予備ノ數個ノ發電機迄悉ク搬出ヲ了シアリ

根コソキ在滿重工業施設ヲシペリヤニ移送シツツアルモノノ如シ
防 諜

以上ノ如キ國際信線ニ違反スル暴行爲ヲ爲シツツアル現狀ヲ滿洲國
外ニ漏洩ヲ防止スル爲ノ各種手段ハ實ニ嚴重ナルモノアリ一例左ノ
如シ

1 接收又ハ退出ノ命ヲ傳ヘニ來ルソ軍將校ハ總對ニ官氏名ヲ告クル
コトヲシ又總對ニ口頭主線ニテ記錄ヲ許サス

2 ソ軍司令部ニ接收ノ爲出頭スルモ記錄ナキ爲證據トスヘキモノナ
ク向側ノ不利ナル場合ハ誓ヲ左右ニシテ濁シ或ハ前首ヲ懸シテ斷
乎ト拒絶スル等現在ノソ軍司令部ハ海外ノ相手ト爲シ得ス

3 米軍特務機關ハ終戰直後奉天ニ到着シ直ニ超短波ヲ以テ滿洲情
勢ヲ打電セントシタルモノ側ノ妨害波強大ニシテ容易ナラス辛シ
テ報告ヲ了セシ如キ情況ナリ

4 陸海國境ヲ嚴封シ入滿ノ手段ナシ
5 在支米空機八臺ヲ以テ中國側要人ハ東三省ヘノ先遣軍政委員
ニ約三百名ハ新京飛行場到着後國務院ハ最中ノ政府機關建築物ニ
シテ最中壯麗ナルモノトスニ入ラントセルモノ側ハ之ヲ肯セス

目下市公署内ニ總詰問檢軟禁セラレテリソ軍ノ嚴重ナル監視下ニ

在リテ外部交渉ハ勿論中國トノ通信連絡モ不可能ノ状況ナリト
シテ軍ノ監視ヲ逃レテ奉天市外へ逃ラントスル日滿人ハ幾ク斃殺セ
ラレツツアリ

四 ソ聯軍隊ノ掠奪暴行ノ現状

懸慮カ見當ノ所業トモ覺ヘシニ物ナク冒濫ニ傾スル戦慄スヘキ暴虐
無道天人共ニ許スヘカラサルホトス
其ノ一例左ノ如シ

ノ三十三名ノ少人数ニ非シテ四十名五十名ノ一團隊ノソ聯兵六ト
ツツクニ便乗シ來リ一家屋敷ヲ一層ニ檢索スル如ク包围シツツ先
ツ時計貸金庫ヲ次ニ婦女ヲ殺シ最後ニソ聯兵三名ヲ以テ擄擄シ得
ル家財道具等ハ悉ク一物モ余サス掠奪シ去ル
2乳母子ヲヒント抱イテ一命ヲ奪ハルルモ強姦抵抗セントスル母親
ハ数人ノ暴力ヲ以テ津坊ヲ取上ケ之ヲ石床ニ投ケ殺シ以テ寄テ
カツテ母親ヲ強姦スルヲ常トス

3腕力ヲ以テ反抗シ或ハ逃れケントスルモハ悉ク之ヲ斃殺ス
4老若ノ間ハス彼等ノ毒牙ニカカリ暴行ヲ受ケサルモノナシト云フ
モ過言ニ非ス
奉天市内幾十萬ノ日本婦女子ハ何レモ無念ノ血涙ヲ吞テ惡鬼ノ所業

ヲ甘受セサルヘカヲサルノ組織的ノ服従カ死カ然カラサルモ死カ
ノ敵路ニ立ツツアリ

5 一度暴行後ハ二、三日後再び同様ノ暴行ヲ以テ來襲シ再度三
度ニ及ヒ其間更ニ滿人ノ暴行ヲ受クル等無政府ノ革命暴動ノ風ノ
激中ノ如シ

5 共產主義政體成ハ思想ノ宣傳又ハ民衆工作ノ有無

ノソ軍先遣隊奉天ニ到着セル八月十九日直後税關倉庫及紡績會社倉
庫ヲ開放シ滿人貧民一人ニ付キ三百斤以内ノ無償持出ヲ許可シソ
軍ハ共產主義ニシテ貧民ヲ平等ニ富マシム等ト宣傳セリ

2 又先遣隊到着ト共ニソ軍ハ日滿市民ノ生命財產ヲ脅威セズ市民諸
君ハ安シテ業ヲ勤ムヘント街角ニ傳單ヲ貼布シ民心安堵ノ點滿ノ
佈告ヲ發シタリ

3 滿洲共産黨員ノ入滿及之カ活動等ニ關シテハ何等窺知シ得ス
第二 滿洲國皇帝ノ近況

終戦後八月十六日通化ニ待遊セラレアリタル陛下ニハ重臣大員約
三〇名ト此ニ空路奉天經由内地ニ向ハントシタリ

2 之ヲ未然ニ察知セルソ聯ハ空軍ヲ以テ同日奉天飛行場ニ先着シ皇
帝一行ハ空陸機到着ト同時ニ出迎ニ出場セル後宮大將及燕僕等

ハ奉天市滿洲官吏ノ要人ト共ニ之ヲ逮捕シテ夕ニ護送セリ

其ノ後子夕ニ於テ用事ヲキ術長ハ徒從ノ一人ヤ一某氏ハ滿人ナ

リ一ハ歸國ヲ許サレ皇帝ヨリ小切手ヲ拜受シ歸國シ奉天ニ歸リ

々其後皇帝御一行並ニ名ハ再ヒ歸滿ヲ許サレ目下新京ニ歸還セラレ

ソ軍ノ護衛下ニ在リ御無事ナル由ナリ

第三 在滿日本人ノ狀況

本狀況ハ奉天市内ニ於テ見聞セル實情ニシテ概々備實ナルモノトス

一、五月總急勳員ニテ約八〇万ノ日本男兒ハ召集セラレ終戦ト共ニ各軍

團所在地ニテ解除セラレ歸路ニ就ケタル者多クハソ軍ノ爲各停軍場

ニ於テ捕虜トセラレ關東軍ノ大部ト共ニシペリヤ方面ニ護送サレ

二、關東軍ハ武裝解除ノ後中佐以下悉ク貨車ニテシペリヤニ後送サレ

リ大佐以上ハ滿洲國內ニ在ル由ナルモ地點等不明ナリ

三、北滿滿洲ヲ問ハス軍ニ關係シキ一般日本人男子ハ十七才以上五十

才迄ノモノハ悉クソ軍ニ後編捕虜トナリ由トシテ北滿鐵路ノゲージ

線更其ノ他貨物積込ノ習力トシテ隨使セラレアリ

四、辛ウシテソ軍ノ毒牙ヲ剋レタル日本男兒ハ或ハ投シテハ歸軍ニ參加

シ或ハ昔日ノ馬賊トナリテ都會以外ノ竹藪等ニ衣食ヲ求メ又ハ八路軍ト共ニ逆ニソ軍ニ反抗シテ日捕人ヲ彼等ノ掠奪ヨリ捕獲スル等ノ狀況ニ在リ

五 都市ニ殘留シタル婦女女子ハ老若ヲ問ハス終戦ト同時ニ先ツ滿人ヨリ掠奪暴行ヲ加ヘラレ次テ之ニ幾百倍スルソ聯軍敵ノ爲樂紙ニ書ス能ハサル暴虐ノ限リニ甘ンセサルヘカヲサル窮境ニ彷徨シツツアリ

六 奉天市内ニ於ケル殘留婦女女子ハ前途ノ滿人貧民ヘノ倉庫開放後之カ物品分配ニ與リ得サリシ貧民大衆ハ大衆シテ一齊ニ日本商店ノ掠奪破壞ヲ開始シ八月十九日ヨリ六日乃至八日間ニテ日本人商店ハ盡ク掠奪暴行シ得サレ引留キソ聯軍ノ掠奪組織的部隊的暴行ニ留サレアルモノナリ正ニ此世ノ生地獄ニシテ慘虐其極ニ達ス斯クシテ自害ニ於ケル之等ノ暴行ノ爲市内ハ日滿人ノ通行人モナク愚鬼ノ如キソ聯民ノ佛制掠奪殺人ノ饒聲四方ニ響キアル現狀ナリ又市外ニ逃去ラズル日本人悉ク射殺セラレアリ

七 日本將兵ノ家族

先ツ北鮮ハ平壤及以北地區ニ終戦ト共ニ集結ヲ命セラレタルモ間モナク充滞シ一部ハ京城附近迄引揚ケタルモ大部ハ南滿奉天以南大連トノ間ニ集結セルモ其後ソ聯軍或ハ滿鮮人ヨリノ暴行迫害

ハ前通ニ同シキモノアリ

2 集結地ニ於テハ、殊ニ糧秣ノ集積予定ノ如クナラザリシ爲先ツ集結者ノ給養ハ少シ

ハ殘留日本人ノ衣食住

ノ衛夕掠奪セラレアルモ、器具以外ハ放火等ノコトナク可

ニ食糧ハ米、味噌、醬油ハ少聯軍之ヲ奪取スルコトナキ爲テ食糧ハ最低限度ニ所有シアル管ナリ

第四 祖浦半島人ノ状況

ノ戦争間日本ノ威力ヲ發シテ、着テ滿人大衆ヨリ奪取シ其恨ヲ買ヒテリ

タル餘人ハ今次終戦ト共ニ一掃ニ歸タシ受ケ無事ナル者モ合セテ可成多岐ノモノハ慘殺セラレタリ

2 尙殺害ヲ免レタルモノニシテ朝鮮内部ニ避難リタルモノハ僅少ノ一部ナリ

3 全滿各地ニ於テ此ノ如キ状態ニシテ半島人ノ全滿民衆ニ對スル觀

望間ノ暴着鐵ヲ撒定シ得ルモノアリ

第五 中國ヨリ入滿セル第八路共産軍ノ状況

ノ八月下旬冀東地區ヨリ率火ニ約五〇〇〇名到着シ直チニ新京方面ニ半數ヨリ前進セシメタリ

之強半數ノ八路軍ハ直チニソ軍ノ爲東陵ニ隔離シ市内ニ入城ヲ許サ

ス數次ノ抗戰ノ結果滬ク市内ニ入レリ

ト一方ソ聯ノ毒牙ヲ免レタル日本人調東軍將長及滿洲國軍ハ之ニ加

人シ忽チ二〇〇〇〇〇人ノ大軍トナレリ之カ爲軍費調達ノ爲奉天市

内滿洲與人ニ對シ二千萬圓ノ供出ヲ命シタル爲却テ八路軍ハ滿人

ヨリ反感ヲ買フニ至レリ

然ルニ又奇妙ナル事態ハ日本語ヲ破ス此等新八路軍ハソ聯ノ暴虐行

爲ニ固シ敢然日滿人ヲ擁護スルノ立場ニアリ

ト以上ノ狀況ハソ聯軍對八路軍ノ關係ハ單ニ共産主義ノ標榜ニ於テ一

ツノ際リト有スルノミニシテ統率指揮及精神のニ何等協同一致密接

ナル聯繫等殆無ナル事ヲ證明シテ興味アルモノト認ム

第六 ハルビン市ノ情況

ハルビン市ト煙天トノ連絡ハ日本領トシテハ滿人ニ扮裝シ貨車等ヨリ

リ可能ニシテ殊ニ揚師又ハ軍醫等ハ何等カノ自由ヲ有スルモノノ如シ

ノ終戦ニ伴ヒ白系營人ノ獨日人暴行事件ハ遠日其勢退シウシツツアリ

ト由來營市由派ハ殆ト全部ト得シ得ル位我聯務機關ノ關係要員ニシ

テ終戦時ヨリ敢ヘテ三人目前ノ我聯務機關長ハ聯ニ絶大ナル厚意ヲ

以テ白系ヲ好待遇センカニ代前ノ機關長ハ其反對ニ之ヲ大イニ引締

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="667 741 1102 1155"><tr><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>7</td><td>8</td></tr></table>	1	2	3	4	5	6	7	8
1	2								
3	4								
5	6								
7	8								
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め								
上記のとおり分割撮影した事を証明する。									

1738
1739
1740
1741
1742
1743
1744
1745

陸軍

日時	陸軍	方軍	戎軍	兵團
1200/14	總 軍 (大詔喚発セリ)			
0200/16	總作命申才号			
	總司令官ハ詔著ノ主旨ヲ完遂 セシ各軍ハ別命付近現任務ヲ續 行スルニ 0722 16 著			
1130/16		方軍作命申才三三三号 1430 16 著	蒙作命申才八三号	
1100/16		方軍ハ詔著ノ主旨ヲ完遂セ シ又別命付近現任務ヲ續行スル ニ 蒙疆派遣ハナシ	軍ハ詔著ノ主旨ヲ奉体シ 別命付近現任務ヲ續行セシ	
1700/16			蒙作命申才八四号	
2100/16		總作命申才六号 0050 17 著	方軍作命申才三三七号ト同主旨	
17	即時戰鬥行動ヲ停止スル 總参一電才九六五号			
	大本營ニ於テ即時停戰行動停止 ノ未精徹底ニ要ス期日ヲ十六日正 時ヲ基準トシ六日ト予想シ折衝 スリ			
0900/17		方軍作命申才三三三号	蒙作命申才八六号	
17			諸部隊ニ遲リモ二十日正時迄ニ戰鬥 行動ヲ停止スル	

戊 軍

兵 團

日本軍ノ戰鬥行動
0800/14頃輕爆七機張北北方ノ軍ヲ
爆撃 戦果不明

ノ蒙軍ノ戰鬥行動

(蒙参電才六八号)

0900/15過 蒙軍自動車十数輛ヲ基幹トシ張北

ヲ攻東 一五時過張北日本軍撤退ス

直協機ノ偵察ヨリ(一八〇頃)張北北方約

二料ノ間ニ各種車輛約三〇ヲ認め

十二日 敵ニ積極的企圖ヲ認め(蒙作命甲才八号)

1130/11ノ聯機ニ張及口爆重 死傷約一〇名

(蒙参電六六二号)

蒙作命甲才八二号
軍八部書ノ主旨ヲ奉命シテ別命アリ
近現任務ヲ履行セシム

蒙作命甲才八四号
万軍作命甲才三七号ト同主旨

蒙作命甲才八六号

諸部隊ニ避リモニ五百十六時近ニ戰鬥

行動ヲ修正スル

著者 大同大同間 駐蒙軍ハ 以乘京包 著者 極力之ガ 著者 實施ニ 引揚方

蒙作命甲才九六号
 北方ノ敵ハ張家口奪取ヲ企圖シラルモ、如シ
 285ノ兵ヲ張家口ニ集結セントス

大同張家口ノ居留民ヲ後退セシメトス
 才線陣地ヨリ打撃ヲ受テ、停戦意
 圖放送ス

自備ノ砲及戰車壕ヲ越テテ、
 他射重ヲ行ハス

1630/18 戦機一榆林飛行場及張家口砲臺
 損害アリ
 1730/18 頃再度未龍表投弾ナシ(蒙作命甲才九六号)
 18/18 張北方面ノ敵情(蒙作命甲才九七号)
 張北ニハ裝甲車及自動貨車約五、一般ニ敵
 ノ動キ活潑ナリ
 朝19 裝甲車十数輛及砲數門ハ、陣地直前ニ
 進出、終日砲撃ス(辻田參謀報告書)
 二十日 敵ノ攻勢依然止マズ(蒙作命甲才九七号) 夜遂
 ニ一部歩隊陣内ニ渗透シ来ル

(日本標準規格 B-4)

對ソレ作戰計畫準備ニ就テ 一〇一五

「對ソレ敵情判断」

1. ソレ併、侵攻時期 一九四五年八月以降

然シ南東軍、北支軍共十月頃、公算多シトテ準備ヲ進メアリタリ

備ヲ進メアリタリ

2. 兵力

内蒙方面、ソレ軍四ヶ師團(機械化師團ヲ善クス)

ソレ軍兵
進攻派

1246

外蒙騎兵一ヶ師團

熱河方面(古北口ヲ含ム以東地域)ノソ軍ニテ師

團(機械化師團ヲ主トス)外蒙騎兵(一ヶ師團

山海關方面滿洲ニ侵入セルソ軍錦州方面ヨリ時期

ヲ遲レテニテ師團侵攻ヲ豫期ス

3. 京津地區侵入判断

ソ軍ハ共匪ヲ支援シ自己勢力ヲ北支ニ扶植スル

為京津地区ニ侵入ス

右ニ伴フ參謀ノ意見ハ尤ノ如クニ派ニ分レアリタリ

不侵入ニヨリ支那ヨリ怨ヲ買ヒ又米軍上陸ノ際摩

擦ヲ生ズル為侵入セズ

ロソク行動ハ戰勢ノ餘威ニ乘シテ他ニ遠慮セズ京

津地区ニ侵入ス故ニ作戰準備ノ立場ヨリ米軍上

陸前ニ侵入スルコトアルヲ豫期セザルベカラズ

二對ソノ作戰準備ニ就テ

1. 派遣軍ノ作戰方針

對ソノ支持久ヲ策シ上陸シ來ル米軍ヲ撃破ス

2. 方面軍ノ對ソノ作戰指導要領

1. 方針

侵攻シ來ルソノ外蒙軍ノ戦力ヲ破挫シソノ北部

華北ノ要域ヲ確保ス

口指導要領

(1) 外蒙方面ヨリ内蒙方面ニ侵攻スルコト外蒙軍ニ對

シテハ駐蒙軍ヲシテ張家口及大同附近ノ要地ヲ

確保シテ其ノ戦力ヲ破推セシム

(2) 満洲方面ヨリ侵攻スルコト外蒙軍ニ對シテハ満支

國境附近ノ要點(古北口、喜峰口、山海関)ニ於テナル

ベク長ク其ノ前進ヲ阻止スルト共ニ其ノ戦力ヲ消耗セ

シム

(3) ソ外蒙軍更ニ深く侵入セバ京津地區ノ要點(北

平、天津、唐山)ヲ確保シツツ其ノ戦力ヲ破推ス

(4) 止ムヲ得サルモ北平、及其ノ西方高地帯ハ最後迄確

保ス

三、部署

概定スルコトカノ如シ

ト関東軍トノ作战地境

山海關—大城子—タリ湖—ユクシユルヲ連ヌル線

2. 駐蒙軍(21D 2BS 4WBS)ヲ基幹トス(張家口大同附近ノ要地

ヲ確保シテ侵攻スルソ外蒙軍ノ戦力ヲ破推ス

3. 熱河支隊(108D)ニテ大隊)承德附近ノ要地ヲ確保シテ
侵攻シ來ルソ外蒙軍ノ戦力ヲ破推ス

4. 8BS吉北口附近ノ要點ヲ確保シ侵攻シ來ルソ外蒙軍
ヲ努メテ長ク阻止ス

5. 伊藤支隊(幹部候補生隊兵力約三十)八達嶺、
居庸関附近ノ要點ヲ確保シ、侵攻シ來ルソレ外蒙
軍ヲ努メテ長ク阻止ス

6. 特赦言、滿支國境附近ノ要點(喜峰口、山海関)ニ
於テナルバク長ク進攻シ來ルソレ外蒙軍ノ前進ヲ
遲滞セシムルト共ニ豊潤、唐山ノ要地ヲ確保ス

7. 120(總軍ヨリ轉用セラレル部隊) 98ヲ併セ指揮シ天

津附近ノ要地ヲ確保ス

8. 3TKD (3WBS, 7WBS, 2IBS) ヲ屬ス、但シ戰車ノ主力ハ中支ニ機

動歩兵聯隊ノ主力ハ河南ニ在リ、北平及其ノ西方高地

帯ヲ確保スルト共ニ石門以北ノ京漢線ヲ確保ス

9. IA 太原(含ム)以北ノ山西省ニ戰面ヲ收縮スルト共ニ

114Dヲ含ムテ師團半ノ兵力ヲ張家口若クハ北平附近

ニ至ラシムル如ク準備ス爾後ノ行動ハ狀況ニ依ル

10. 12A 黄河以北ニ戦面ヲ縮小スルト共ニ約一ヶ師團(110D)

ヲ北平ニ別ニ一ヶ師團(115D)ヲ濟南ニ到ラシムル如ク準備ス

爾後ノ行動ハ狀況ニ依ル

問 115D ハ對米戰力ナリヤ

答 對米對ソ西方ナリ米軍上陸セザレバ對ソニ使用ス

11. 43A 依然對米作戰準備ヲ續行ス

四 作戰準備

1. 十月頃迄ニ11D(270)ト豫定セルヲ張家口ニ到リハ司令官
ノ指揮下ニ入ラシム

2. 22D(1310)ト豫定セルヲナシ得ル限り速カニ(時期未定)

天津ニ到リテ司令官ノ直轄タラシム

3. 尤ノ如ク陣地ヲ十月末迄ニ概成ス

1. 北平及其ノ西方高地帯ニ約四ヶ師團分

口天津附近ニ約一ヶ師團分

ハ八達嶺ニ約一ヶ旅團分

ニ古北口ニ約一ヶ旅團分

ホ唐山、豊潤合セテ約一ヶ旅團分

ハ山海關、喜峰口ハ特敬言ニ一任

五問答

問ドイツニ於ケル國民突撃隊ノ如キモノヲ使用スル計

画アリシヤ

答支那人ヲ使フ事ハ困難故ニ日本人及支那人ノ

一部ヲ使用スルコトノ研究ノミニ止マレリ

問降伏當時地方人ハ盛ニ軍事訓練ヲ實施シアリ

タルニ非ズヤ

答防衛隊ヲ組織シ訓練シアリタルモ本格的ニ至ラス

問大使館ノ権限ハ地方人ノ動員ニ迄至リシヤ

答動員ハ軍ニ於テ實施ス決戦態勢中生産

部門ヲ大使館ニ於テ擔任ス

問、成Aノ編成ハ弱小ナルモ從來ヨリナリヤ

答、然ラズ118D、3TKD等アリ118D轉用ニ伴ヒ4WBsヲ編成ス

又、92B^sモ元ハ成Aナリ米軍上陸ニ備フル為成Aノ兵力ニ無理

ヲ生セリ

問、成Aニ對スル轉用兵力ハ急速ニ轉用可能ナリヤ

答、一ヶ月ニテ轉用ハ可能ナルモ空爆及土匪ノ妨害ヲ

願慮シ轉用兵カヲ胸算スルコトナク要地毎ニ熟慮ヲ實

行シ得ル如ク準備シアリタリ 1180ノ轉用セラレタルコトハ

僥倖ナリ

必管區ニ師團ヲ置カザリハ總軍決斷誤算ニシテ總

軍ハ餘リモ米軍ノ上陸ニコダハリ居タリ

又ソレ參戰ニ對スル諸準備ニシテ作戦計畫準備共

ニ乏チ遲トシ威アリタリ 昨年ニ於テ中南支ノ兵カヲ北

支ニ轉用シ地盤ヲ固クテ置ク必要アリタルニ不拘諸方ニ
キヲ出シ過ギタル爲兵力不足ニ陥リタリ。自分個人考
トモ諸般ノ情況上湘桂作戰、老河口作戰モ共ニ一考ヲ
要スルモノアリ。又對シテ準備ハ更ニ促進スルノ要アリ

問 關東軍ト作戰地境確定セルハ何時カ

答 六月ナリ以前ハ滿支國境ヲリ湖東端ヲ達スル線

トス